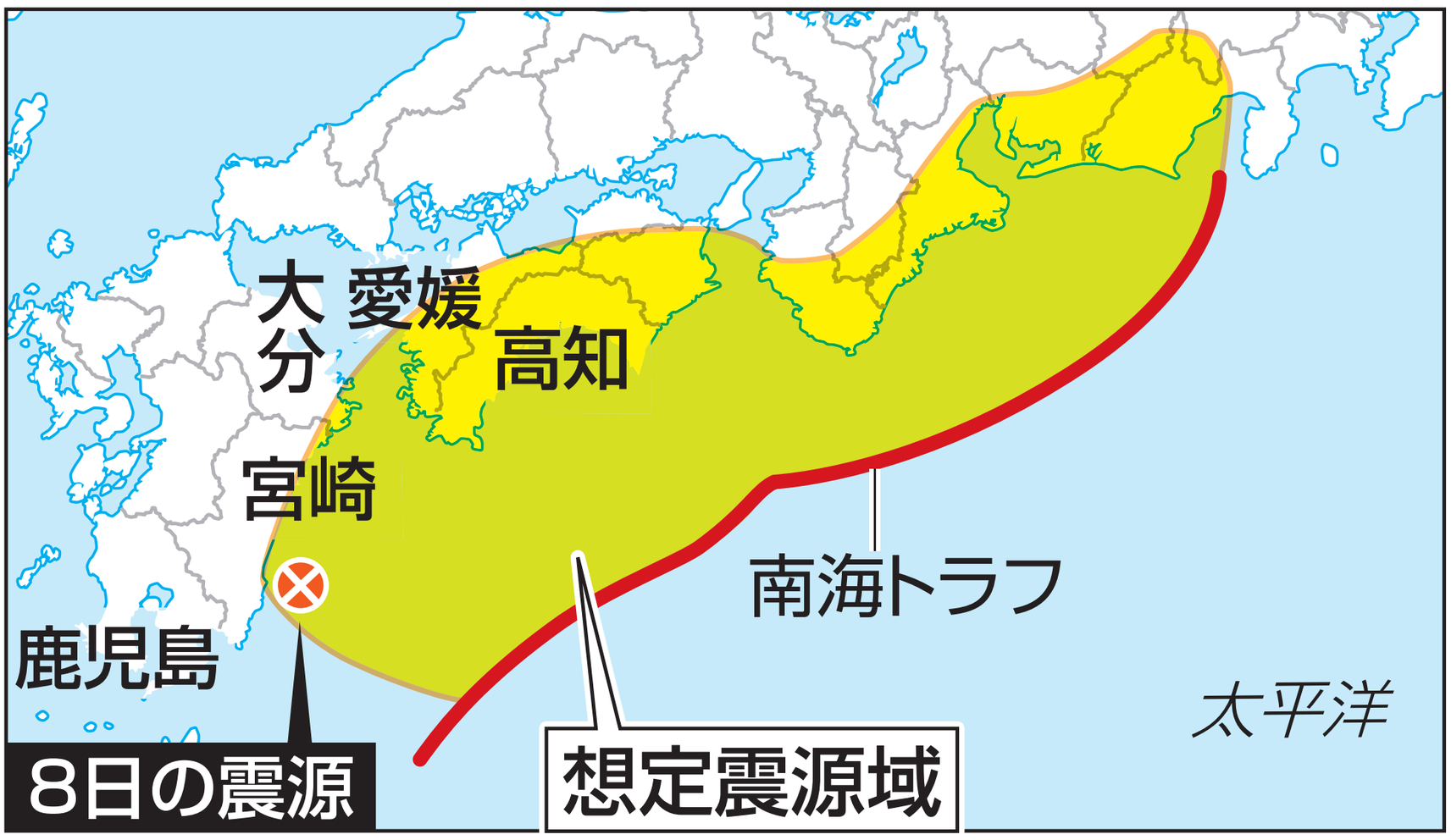
速報
徳島新聞
2024年
8月8日
木曜日
徳島新聞社
徳島市中徳島町
2丁目5番地2
電話(088)655-7373

南海トラフ 可能性高まる

気象庁、初の注意情報

宮崎 震度6弱で



気象庁は8日、南海トラフ巨大地震の臨時情報で「南海トラフ巨大地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっている」として注意情報を出した。午後4時43分ごろ、宮崎県南部で震度6弱の地震があり、調査していた。最大規模の地震が発生した場合、関東から九州にかけての広範囲で強い揺れ、関東から沖縄にかけての太平洋沿岸で高い津波が想定されるとして、注意を呼びかけた。

臨時情報は「南海トラフ地震に関連する情報」（臨時）として、2017年11月に運用が始まった。19年に「南海トラフ地震臨時情報」と名称が変わり、現在の基準に改定されている。臨時情報が発表されるのは今回の地震が初めてとなった。

気象庁によると、震度6弱の地震の震源地は日向灘で、震源の深さは約30キロ。地震の規模はマグニチュード（M）7・1と推定される。

気象庁は地震と南海トラフ地震との関連調査のため、有識者で構成する評価検討会を臨時開催。高知、愛媛、大分、宮崎、鹿児島の各県に津波注意報を出した他、今後1週間程度、震度6弱程度の地震に注意するよう呼びかけた。

気象庁によると、震源地は南海トラフ巨大地震の想定震源域の範囲内。今回の震源が想定震源域の範囲内にあり、情報を出す条件となるM6・8以上だったため、臨時情報を出したと説明した。

気象庁は宮崎県で約50センチの津波を観測。高知県と鹿児島県でも観測した。

熊本県と宮崎県、鹿児島県で負傷者の情報がある。警察庁は警備局長をトップとする災害警備本部を設置した。

徳島新聞ご購読申し込みは　0120－46－1940